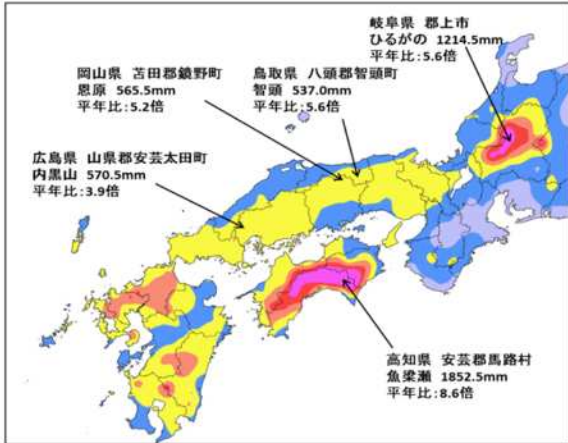
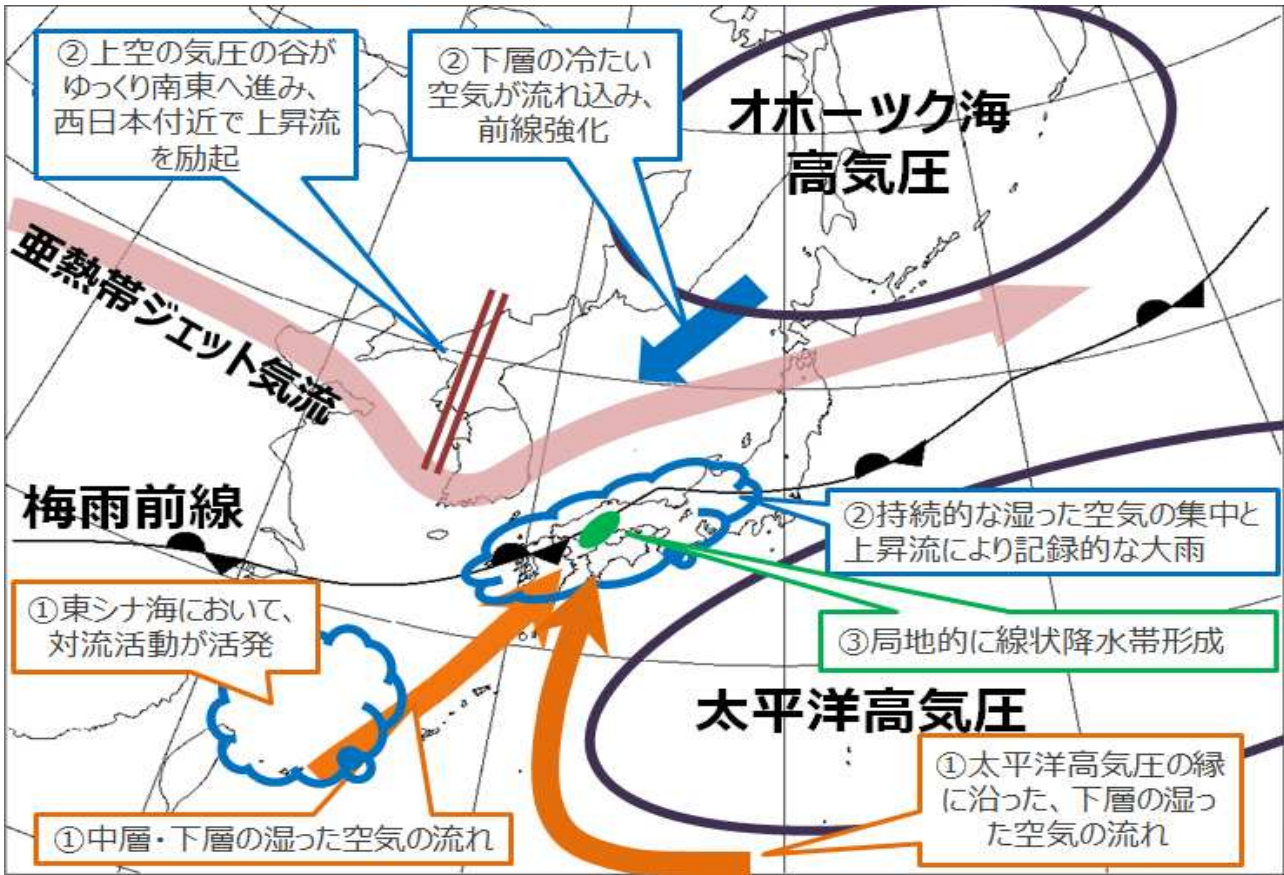


気仙沼・南三陸圏域大規模災害時の減災対策協議会
平成30年度9月6日 仙台管区気象台

「平成30年7月豪雨」の大雨の発生要因

大雨をもたらした気象要因
多量の水蒸気の2つの流れ込みが西日本付近で合流し持続
梅雨前線の停滞・強化などによる持続的な上昇流の形成
局地的な線状降水帯の形成



「平成30年7月豪雨」降水分布
(期間: 2018/6/28 ~ 7/8)

特徴

- ・この期間、四国地方で1800mm以上、東海地方で1200mm以上と7月の月間降水量の2～4倍の大雨となった。
- ・2日(48時間)～3日間(72時間)の降水量が記録的に多かった地域は、普段雨の少ない瀬戸内地方(記録1位を多くに地点で更新)を含め、西日本から東海地方と広範囲であった。